

**題目:**言語証拠の法科学的分析:課題と展望(仮)

**要旨:**近年、モバイル通信機器およびソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)の普及に伴い、これらの高い匿名性を悪用した犯罪利用の事例が増加している。とりわけ「なりすまし」は、犯罪者によって頻繁に用いられる手法の一つである。このような事案においては、やり取りされた音声やテキストが、個人識別に関わる唯一の情報源となる可能性が高く、刑事捜査および法的手続きにおいて極めて重要な証拠となり得る。

本講演の前半では、科学的証拠の評価に広く用いられている「尤度比 (likelihood ratio)」に基づく分析手法を導入し、当該手法が法的および論理的に妥当な方法論とされる理由について論じる。続いて、テキスト証拠に焦点を当て、尤度比を用いた法科学的テキスト比較(著者認識)に関する研究成果を概観する。

さらに、生成系 AI の急速な進展に加え、社会の国際化および多言語化の進行は、言語証拠の法科学的分析に対して新たな課題を提起している。講演の後半では、これらの課題への対応策を検討するとともに、今後の研究課題について簡潔に展望を示す。